

# ごみかんと私



ごみっとの歴代キャラクターにも登場してもらいました。

とうとう最後のごみっと・SUNとなりました。現在のごみかん運営委員会は9名のメンバーで構成され、毎月、定例会を国分寺で開催し、ごみっと・SUNの発行を中心に、さまざまな活動をしてきました。

個性豊かなごみかん運営委員の面々ですが、このメンバーで何の揉め事もなく、信頼でつながって永く活動できたことは幸せなことでした。最終回にあたり、9名の運営委員のそれぞれの想いと思い出を振り返りつつ、ご挨拶とさせていただきます。



代表

田浪政博（東村山市）

1996年10月7日、地元の市民グループ「東村山・ゴミ会議」の代表として東小金井で開かれたある会合に初出席した。いつも外部の会合に出てくれる人がこの日は都合がつかず、代打での参加だった。

この会合がその後のごみ・環境ビジョン21へと繋がるのだが、その時はまったく先は見えなかった。

その頃新聞で、市民運動をする武蔵野市の服部美佐子（元ごみかん理事）という女性の名前を見ることがあり、どんな人かと興味があったが、彼女も会合に参加していた。今のごみかん運営委員の何人かもここで会うことになる。

私自身は、東村山で廃棄物減量等推進協議会やごみ五市連絡会（当時の五市とは保谷市、東久留米市、清瀬市、田無市、東村山市）の代表として活動していたが、ごみ・環境ビジョン21に関わって、新たな学びと新しい人との出会いがいくつもあり、私の大切な場となった。

会計

佐藤道子（清瀬市）



ごみ・環境ビジョン21の事務所は小金井市と国分寺市の中で、何度も引っ越しをしました。最初は武蔵小金井駅南口の商店街はずれの洋品店の二階で、隠れ家みたいで

した。ここが取り壊されることになり、次は国分寺駅南口から殿ヶ谷戸庭園へ行く途中の古いアパート。北側の薄暗い部屋でしたが、会議ではアイデアが飛び交い、一番活発な活動が行われた時期でした。

ここも立ち退きになって、北口へ。やはり古いアパートでしたが日当たりのよい二階の部屋でした。資料がたくさんつまった本棚を、田浪さんが針金で柱に固定してくれて、あの3.11の地震の時、棚の前で事務仕事をしていた私は下敷きにならずに済んだのがよい思い出です。

NPOを返上してからは個人宅に事務所を移しましたが、毎月の定例会は国分寺市の市民活動センターで開くことができ活動に支障が出ることはなく、感謝しています。

副代表

江川美穂子（多摩市）

私のごみの活動を始めたのが1990年。35歳でした。すぐに日の出町の最終処分場問題にぶち当たり、「ここから逃げるわけにはいかない」とごみがライフワークに…。

日本のごみの排出量がピークだったのが2000年。その前、右肩上がりにごみが増えていた1998年にごみ・環境ビジョン21が発足し、『ごみを作らない、燃やさない、埋め立てない』を仲間とともに発信し続けてきました。35歳から70歳のいままで、人生の半分は「ごみ」

だったことになります。（笑）

私ごとですが、ごみかん準備会当時の1997年に第三子が生まれて、ごみっと・SUNに「シニアママの子育てアラカルト」を連載していました。その子が5月には結婚式を挙げるのですから、光陰矢の如し、ですね。

ごみかんは解散後も、私は地元の多摩市で引き続き活動を続けていきます。会員の皆さま、ごみかんに長年のご支援をありがとうございました。



小野寺 勲（日野市）

私は、日野市でマイバッグ運動を立ち上げていた縁で、2004年にごみかんに入会しました。入会当初は、レジ袋有料化を推進するための活動や情報発信に力を入れました。

2013年からは、多摩地域の自治体に、全国の自治体のごみ減量・資源化の牽引役を続けてもらうため、ごみ減量・資源化を競い合ってもらうことを期待して、ごみっと・SUNに「東京多摩地域30自治体のごみ減量・資源化の比較」を連載するとともに、各地の自治体の各種取り組みを紹介してきました。

最近、自治体の取り組みが手詰まり状態にあることから、ごみ処理手数料の値上げを提案しています。

なお個人的には、ごみかんでの活動のおかげで、90歳になる今日

まで充実した第2の人生を送ることができました。

HP/FB 担当  
多田 真（府中市）



私のごみ問題に関心を持つようになったきっかけは、2010年に府中市が街角に置いたダストボックス（いわゆる「24時間いつでも捨てられる」方式）をやめ、ごみ袋の有料化、分別収集、戸別回収をいっきに始めたことに端を発しています。

当初は「これまではごみを出せば自治体でリサイクルなり何なり、適切に処理してくれたのに」と不満でした。ところが、その後のごみの劇的な減少、処理コストの減少、リサイクル率の上昇等を目の当たりにして、自分の過ちに気がつきました。

この時、ごみに関する情報を得るために「ごみ・環境ビジョン21」に入会しました。人が生活し、経済活動を行う限り廃棄物はなくなりません。地球の限られた資源の中、廃棄することなく再利用、再循環できる社会を望みます。

志賀正男（武蔵野市）



私はごみかんに入会以降、地元武蔵野市で、生ごみの拠点回収とその堆肥化を専門に推し進めて来ました。

その具体的な形として、近隣の小学校の教育農園の一部を借りて、45所帯ほどの生ごみ堆肥化をボランティアだけで続けてきました。この動きは、武蔵野市クリーンセンターにも堆肥ボックスを設けるといふ連鎖となり、近隣住民の生ごみを集めています。

この2か所が本格的な堆肥場と言えますが、これ以外に、高齢者施設3か所、障害者施設2か所で

も施設内で発生する生ごみの堆肥化が行われています。

ここで、先の小学校の教育農園の堆肥化の活動が開始から12年経て、作業者の高齢化が避けて通れないところとなり、残念ながら3月で閉鎖することとなりました。日頃、若年者層のボランティアを真剣に募っていなかった付けが回ってしまったと総括しています。

加藤了教（小金井市）

私のごみ問題に関わったのは、小金井市の新焼却場建設問題からでした。我が家のすぐ近くが建設場所候補地の一つになったことで、建設場所検討委員になってからでした。

地域の方々と市民団体をつくり、勉強会や各地のごみ処理施設見学などする中で、ごみ・環境ビジョン21を知り、市民ごみ大学セミナー、生ごみ交流集会、「ごみっとSUN」などで先進自治体の取り組みやごみの実態調査結果を具体的に知ることができ、小金井市の取り組みの貴重な参考となりました。

小金井市は次のごみ処理施設等の課題を抱えています。今後、ごみ・環境ビジョンの精神や活動を引き継ぐ団体が現れることを願っています。改めて、ごみ・環境ビジョン21の解散は委員としても残念というほかありません。

橋本久雄（小平市）



日の出に二つ目の処分場が見つられると聞いて、当時は脳性まひの方のサポートをする仕事をしていましたが、仕事がない日はバイクで何度も現地に駆けつけました。しかし、1999年に小平市議になった

ことで、忙しくなりました。

気持ちを同じくするみなさんとごみ・環境ビジョン21を立ち上げ、私自身は緑の党グリーンズ・ジャパンを結成して共同代表を務めたり、気候危機に対応する全国ネットワークの結成にも関わるなどごみかんの会議は欠席続きで、申し訳なく思っています。

議員を退職した今は、事務所を改装して地域の居場所兼チャリティショップ「PON & PON」を運営しています。新しい世代がまじぶりに登場できる環境づくりが今後の私の仕事と思っています。



事務局 / 編集  
井上真紀子（小金井市）

最後なので告白しますが、実はごみかん設立にあたって、私はめっちゃ「逃げ腰」だったのです。社会問題に関心はあったけれど、生き甲斐はバレーボールと登山という体育会系で、議論や会議が苦手だから市民活動は無理！…と患っていました。でも構えた事務所が家から近く、みなさんの熱意に負ける形で関わることになりました。

結局、ご覧の通りどっぴりとつかり、ごみかんの最後に立ち会おうという今…「ごみかんやって、本当によかった」と思っています。ごみっと・SUNの編集や事務局を引き受けなければ、パソコンやITに近づくこともなく、苦手な事務仕事なんて逃げまくり、ぼ～っとした71才になっていたはず。ナニモノでもなかった私をここまで成長させてくれたごみかんと、支えてくださった会員さんに、心から感謝しています。